

川から学ぶ命の大切さ (松山)

4月17日、下伊場野小学校の全校児童36人が、学校裏手の鳴瀬川に整備した「水辺の楽校」で、鮭の稚魚7,000匹を放流しました。この行事は、総合学習「全校松の木」活動の一環で、川の環境が変わってしまうと鮭がその川に帰って来れないことを知ってもらい、河川環境を守ってほしいと、平成12年から毎年行われています。子どもたちは、稚魚が驚かないようにそっと川に放流していました。4年後、立派に育った鮭が帰ってくるのが楽しみです。



ちよっと早い春の祭典 (古川、田尻)

市内各地で桜まつり「第13回ふるかわ桜まつり」が4月15日、荒雄公園で開催されました。会場では太鼓や神楽などの郷土芸能が披露され、訪れた皆さんの大きな拍手を誘っていました。また、16日に行われた「加護坊観桜会」は、あいにくの雨により加護坊四季彩館での開催となりました。桜の開花よりも早い桜まつりとなりましたが、多くの皆さんが会場を訪れ、趣向を凝らした歌や踊りなどのステージを楽しみながら、桜の開花よりも少し早い花見酒を楽しんでいました。

大空を元気に泳ぐ鯉のぼり (三本木)

道の駅「やまなみ」に、群れをなして泳ぐ鯉のぼりがお目見えし、立ち寄る皆さんの注目を集めています。毎年、大豆坂地蔵尊例大祭や菜の花まつりの時期に合わせて設置され、今年は5月14日まで飾られる予定です。

この鯉のぼりは、家庭で使わなくなり、物置に眠っていたものを寄付していただいたもので、今年は93匹の色とりどりの鯉のぼりが、すがすがしい風に吹かれながら、大空に元気に泳いでいます。



淡く香しい梅の花 (岩出山)

岩出山の春の行事としてすっかり定着した西大崎の梅まつり。毎年、多くの人でにぎわいますが、今年は、4月の半ばを過ぎても開花せず、関係者をやきもきさせました。この日(4月18日)も白梅はまだつぼみで、紅梅だけが淡く香しく咲き誇っていました。会場の佐藤農場(川北地区)では、梅が開花している間は無料開放しているそうです。皆さんがこの広報を手に入れている頃、もしかしたら見ごろかもしれませんよ。



大崎市スタート!

平成18年3月31日は、大崎市誕生の日として、私たちの歴史の1ページにしっかりと刻まれました。

この日は、本庁、各総合支所で開庁式が行われ、地域の皆さんが多数出席。本庁の開庁式では、古川中学校吹奏楽部のファンファーレが高らかに鳴り響き、大崎市のオープニングを告げ、テープカットで大崎市の門出を祝いました。そして最後に正面玄関に市の表示板が掲げられました。

7つの個性が集まって、1つのまばゆい光を放つ大崎市。市民協働で市を大いに盛り上げていきましょう。



大きな夢と希望を胸に!

4月10日、市内各中学校で入学式が行われました。東北では初めてPFI方式(民間資本とノウハウ)を導入して建設された古川南中学校では、午前中に開校式、午後から入学式が行われました。

また、鳴子温泉地域の三中学校(鳴子・川渡・鬼首)が統合された、新生鳴子中学校でも新校舎で入学式が行われ、真新しい制服に身を包んだ新入生たちは、出席者から大きな拍手で迎えられました。(写真は鳴子中学校)

4月10日から12日までの3日間、恒例の「互市」が開催され、多くのお客さんににぎわいました。

鹿島台の互市は、東北一の規模を誇り、明治43年から96年間続く伝統の市です。

厳しかった冬を越え、暖かな春の訪れをこの互市で感じる人も多いはず。訪れた人たちは花や木の苗、山海の物産、農機具、食べ物など、ずらりと並んだ263もの露店を一家一店見ながら、ゆったりと買い物や散策を楽しんでいました。



東北一のにぎわい (鹿島台)